

六連島地区まちづくり集会（H25.10.11開催）

六連島地区まちづくり集会

◎日 時 平成25年10月11日（金）10：30～12：00

◎場 所 漁村センター

◎出席団体数 8団体

六連島自治会、六連島園芸組合、山口県漁業協同組合六連島支店、六連島消防団、婦人防火クラブ、西部第一民生児童委員協議会、桜山小学校PTA、ボランティア団体（ルーラルガイド）六連島フラワーレインボーの会、

◎市出席者 総合政策部政策調整監：星出恒夫、総合政策部部次長：大崎信一
地域支援課課長：阿部恒信、主任：工藤敏也
彦島支所支所長：皆本国俊

◎傍聴者 無

◎次第

- | | |
|-----------------------|--------|
| 1 開 会 | 10：30～ |
| 2 部次長あいさつ | |
| 3 基本的な推進方向について | 10：35～ |
| ・総合政策部政策調整監から説明 | |
| 4 地域の現状と将来を見据えた課題について | 11：00～ |
| （1）地域課題について | |
| （2）課題解決や活性化などについて | |
| （3）総括 | |
| 5 閉 会 | 12：00 |

◎まちづくり集会の目的

地域の自主性と独自性を活かし、市民と地域と行政がお互いの立場を尊重した本市にふさわしい参加と協働によるまちづくりを実現するため、住民自治による地域分権を推進することとしている。

そのため、様々なまちづくり団体が一堂に会し、基本的な推進方向や身近な地域の課題などについて話し合う「まちづくり集会」の場を提供し、住民自治によるまちづくりの機運を高めることを目的とする。

六連島地区まちづくり集会（H25.10.11 開催）

【開催の様子】

10月11日に開催した六連島地区まちづくり集会へは、地域づくりなど、地域活性化のための諸活動を自主的・主体的に行っている団体等から11名にご参加いただき、自治会長を司会として、六連島地区が抱える地域課題、地域の活性化に向けた意見交換などを行いました。



【課題整理結果】

六連島地区まちづくり集会の中で、参加者どうして話し合われた内容を、地域課題とその解決方法とに分け、コンパクトにまとめています。

課題解決や活性化につながる意見は、個人で解決すべきものは自助、地域で解決すべきものは共助、行政が解決すべきものは公助に分けて表示しています。

六連島地区まちづくり集会

10月11日

地域課題	個人で解決するもの （自助）	地域で解決するもの （共助）	行政が解決するもの （公助）
産業			
高齢化による農地放棄			重機を導入 (行政の支援を)
投石事業			もっと行政が現地の情報把握を
環境			
草・木の繁茂(燈台)		燈台以外は管理できている	管理がとてつもない (行政、保安部の支援)
その他			
新造船(事前にみんなの意見集約・反映を)			行政にお願い
ヘリ発着場の舗装			県と協議
漁港管理に伴う過剰規制(県のフェンス設置)			イベント等で短期間利用させては(永住は困難)
空き家の増			行政が買い取り青少年育成の施設に使用できないか(自衛隊跡地)
			体験交流学習の実施

【議事：地域の現状と将来を見据えた課題について】

【司会】

六連島自治会の会長をしています。僭越ながら司会進行を務めさせていただきますのでよろしくお願いします。それでは地域の現状と将来を見据えた課題についてということですので、地域の課題を自由に出していただき分野ごとに整理をしていきたいと思えます。なお発言する場合には挙手をお願いします。限られた時間なのでよろしくお願いします。なんかありませんかね。

【市民】

園芸組合長をしています。

島の基幹産業である農業の方の高齢化が進み、農地もどんどんと減ってきています。私は市の農業委員の一人として、色々な地域の現状を見聞きさせて頂いていますけれど、我々の地域でも、それに輪をかけたような状態で、高齢化が進み、農地も耕作放棄されるような状態です。今後、最低でも現状維持をしていきたいと思っていて、そのためにはどうすべきかという面があるのですが、なかなか思い切った事もできない。

それと産業形態ですが、土地利用型から施設利用型に変わってきた時点で、必要な農地以外の農地の必要性が無くなった。それに、少しずつ体力的なこと、それから高齢化が進むことによって、その施設自体での営農も難しくなったような状態です。

これがもし本土と同じような条件なら、余った農地を他の人に使って頂く事もできますけれど、海というハンデがあるので、そこもなかなか解決できない。

出来るならば、現状を維持していくための重機であるとか、或いは今日、NHKの番組に出ていた羊或いは山羊による除草だとかいった事も必要だと思います。羊であれば今度は毛を刈らないといけませんので、だから山羊なんかであればね。

それとやっぱり、施設園芸では今、害虫の被害がだんだんと酷くなってきてまして、草が繁茂すると、ますます被害が増大しています。どうにかして、草の一つでも枯らすような方法がないか、除草剤もあるのですが、1年に何十回と撒いても、1ヶ月もすれば元の木阿弥なので、これをやっぱりどうにかしないとイケない。

これは地元が幾ら頑張っても、ちょっと難しい所があるので、やはり行政にそういう所はお願いしたいなど。

ただ、市にお願いする場合、重機を利用するための事業は、農業委員会の範疇でもないだろうし、農林整備課にそういう枠があるのかどうか。まだ、大まかな話をしていないのでちょっと分かりませんが、そういう所を市の関係課に繋いで頂きたいと思えます。

それと、有り難いことに、20代、30代の後継者が4人いるのですが、しかし、農業地域が今後もこのまま、変わらずにやっつけていけるという地域も少ないのではないかと。

花卉の産業で全国的にも六連島が有名になって、その後の衰退も早かったのですが、また次の後継者も育つというような状態にありますので、市の更なる支援をお願いしたい。

市の職員には、再々島に来てほしいと声を掛けていますが、やはり職員数の減少や、市域が広がったことで、なかなか市と現場とのコミュニケーションが取れていません。

確かに、市の職員の仕事も多いでしょうし、パソコンを見ていても仕事が進むとは思いますが、現場の情報というものを全然知らないです。それから今、TPPに関する問題として、国も力を入れています、施設園芸に対する補助とありますが、そういう事業も少ないので、もう少し回復させて欲しいなど。これが農業に関する現状と問題点です。

【市民】

フラワーレインボーの会です。

年に2回ほど、本土で生活されている方に、島を探検してもらう企画をしていて、この10月で4回目の企画が終わるのですが、島の中は草がものすごく生えていて、今日も見て頂いたら分かると思いますが、灯台に上がる北側の階段には暖竹といって、島特有の木が生い茂って、上がれないような状況です。階段を上がったも、灯台までの20メートルくらいの道の左右に、草が50センチぐらい生えていて、探検しようと言っても大変なのです。

だから、私たちも除草剤をかけたり、鍬を持っていたら草を刈ったりもするのですが、とてもそんなことでは間に合わない状況で、9月にルーラル探検隊を行った際には、30名の参加者を、50分かけて島内をご案内したのですが、灯台の探検はお断りしました。

この灯台は、明治天皇が明治4年に来られたという、日本でも三本の指に入るくらいの石造りのもので有名ならしいのですが、その灯台を見せることができなかつたは非常に残念です。

だから、六連島には、そういった灯台がせっかくあるのに、来られた皆さんに見ていただけないのは非常に残念です。

島に生える草と木を、島の人だけで管理しなさいと言われても、最近はやっとできなくなっています。

私たちの探検隊は今度で8年目になるのですが、荒れた土地を利用して芋の苗を植えたりするのに、年間100～200名の方が来られますし、リピーターの方もいらっしゃるのです、そういう方々のためにも、やっぱり島の草木の管理をどうかして貰えないものかと思っています。もちろん、私たちもボランティアで、年に何回も除草剤をかけたり、草刈りをしたりもするのですが、追いつかないので、行政の方でどうかならないかなと思って今お話した次第です。

【市民】

灯台の管理をされているのは、海上保安庁と地元、どちら側になるのですか。海上保安庁であれば、自治会から草刈りをして下さいとは言えないものでしょうか。

【市民】

そうですね、灯台は太陽光を利用して、自動点滅になっているので、1ヶ月に1回くらいは点検に来られていると思います。

【市民】

私も随分とボランティアで草刈りもしましたし、町内の役員にお願いしたりもしましたが、管理はずさんです。

【市民】

5月の例祭に、桜山小学校の児童も来るとなると、4月に父兄で草刈りをして通れるようにはしたのですが、2ヶ月後の6月にルーラル探検隊を行った時には、もう人が通れないほど草が生い茂っていました。女性だけでは、暖竹を刈ることができないので、急遽、除草剤をまいたのですが、とても間に合わない状況なので、是非、今日は現場を見られて帰って下さい。皆さんも、これではいけないなと感じると思います。

それと、「いきいきシルバー100」の期間には、お年寄りの方が交通機関を100円で利用できますので、それを利用して六連島に何十人も来られます。いつも5～6名が島巡りをされていて、ここからどの様に行けば波止場の定期船まで帰れるのかと良く聞かれるのですが、そのお年寄りからも、ここは上がれないねと言われているのを聞いた事もあります。六連島にきたのだから、灯台も見て帰りたいと思っているお年寄りも、がっかりされます。

黒雲母の玄武岩は畑のすぐ側にあるので、畑の管理と一緒に草刈りもして頂いていますし、お寺も我々が、公園も管理しておられる方がいます。だから、問題は灯台だけなので、それをどうにかならないかなと思っています。

【市民】

それでは、そういう点で行政が認めた市の史跡、市が認定した史跡などの管理というのほどどこまでできているのか。それと観光マップもできていますが。

【市民】

市の方が上手に観光マップを作って下さって、ここを出発してぐるっと周れば、島の観光地を見て頂ける。今までは、玄武岩がある場所にはどう行ったら良いのか分からないといった声も聞きましたが、このマップが出来たお陰で、散策もしやすくなったし、聞かれても説明しやすくなりました。今年も、この観光マップを100枚ほど頂いています。

このマップを地域支援課が作って下さったので、私たちもしっかりと利用しています。

せっかくこういった物があるのだから、灯台入口の管理くらいは市にどうにかして貰えないだろうかと思っています。

明治天皇行幸の記念として立派な記念碑があるのですが、あそもまた竹が生えていて、管理が大変です。せっかくの立派な灯台ですし、花の島であるとか、神話の島といったコメントも書かれてあってすごく分かりやすい。だから年寄りの方は、本当に楽しみにして毎年来られているようです。私は去年もマップを100枚ほど頂きましたが、今年も100枚頂き、大体が配り終えています。毎年、記念にどうぞと渡しています。

【市民】

それはあるかも分からんね。

【市民】

だって、こんなマップがあれば楽しみといいですか、これがあるお陰で、それなら友達や家の者にも話が出来ますし、花の島なら、せっかくだからフラワーアレンジメントもして帰ろうといわれます。それに、花があるから買いに行こうかねとか言って、またお弁当持ってから子供と一緒にいこうかねとか話が弾みます。

普通の人には全然知らないのですが、今、急に島に来られても、私たちもこういうフラワ

六連島地区まちづくり集会（H25.10.11 開催）

言えたのですが、造った後で、これができましたと言われても、やっぱり島の人が使いつらいとか、相当に問題があると思います。なので、やっぱり市の計画ができた段階で、ある程度、島の子の意見を十分反映できるような方向に持って行って貰いたいと思います。

今後、船を造る際には、島の意見を聞いて下さい。よろしくお願いします。

【市民】

確かにその通り。子供には、車が来ないか左右を良く見て渡るように言い聞かせてはいますが、親としてはやはり気を使いますね。

【市民】

六連島消防団の団長をしております。

先日、防災ヘリの訓練をしたのですが、前の広場がちょうどヘリポートになっています。

しかし、舗装されていないので、ヘリの風で砂利が飛びますので、皆でこの建物とそちらの建物とにシートを張りました。出来ればきちんとヘリポートの舗装をして頂ければ助かります。万が一、病人を運ぶ際でも、そこの建物のガラスが、石が飛んで割れるといけないでしょう。

【市民】

以前は自衛隊がそこを指定していたのですが、今は閉鎖されて施錠もされているので、人も入れないし、何の使い道もない。

【市民】

それと私事ですが、家内が障害者で、渡船場からの段差がひどい状態ですし、それと待合所に行く県道との境、旧事務所跡地にフェンスが張られていますよね。

そこも狭くなっているので、トイレに連れて行くのも大変です。以前は、待合室の横は空いていたのですが、今はきれいにつぶして、入れないようになっています。

【市民】

コンクリートで基礎をしていますね。

【市民】

それと、車イスなので、今は県に頼んで停めさせて貰っているのですが、家内を連れてきて、以前はあの渡船場も島の子が車を停めることが出来ました。

そこはチェーンだけだったので、少し持ち上げたら通れたのですが、今は針金できちんと固定されていて、で通れなくなりました。そういった事も、もう少し県と話し合ってもらいたい。聞いた話では、事故があったらしく、漁港上の管理で、もう一般人が入れないようにするとなって、県がフェンスを作ったそうです。

あそこの守衛との間が狭くて、車イスではギリギリ通れるかどうかです。

【市民】

六連島は、今、車イスの方が2名いらっしゃいますね。

【市民】

今後、車イスの利用者も増えてくると思いますので、船の件と、施錠されている箇所について、早急に何とかして頂きたいと思います。

【市】

ご要望はご要望としてお繋ぎはするのですが、例えば高齢者が増えて、空き家が増えてきたとか、高齢者が増えてきたことによって地域で何か、今、正に皆さんそういう活動をされていると思いますけれど、今以上に、地域に出来る事は何か、といった意見も頂けたら幸いです。

【市民】

確かに、島の中に空き家が増えていますが、現状として住みにくいのですよ。急な傾斜地も登らないといけませんで、町の人にどうぞ住んでくださいと言っても、健常者でないと住めないと思います。私たちが年を取ると、足が悪くなって病院に通うのもままならない状況が今後は増えてくると思います。それを条件にどうのこうのっていうのもあれでしょうけれども、なかなかそういうことで空き家を利用するっていうのはちょっと難しい点が多々あると思います。

【市民】

ちょっとした空き家といっても、1年中住むとかではなくて、例えば、夏場に地域の子供会で使わせてくださいっていうのだったら、自然も豊かだし、車も走っていないから、安心して楽しめるのではないかなと思うのですが、365日住んで下さいというのはちょっと無理かなとは思いますが。イベント用として、夏場だけ林間学校のように利用するのであれば、大いにあるのではないかなと思います。

【市民】

今後、自衛隊が払い下げるかどうかは分からないのですが、その跡地があって、ちゃんとした建物もあります。その建物を有効活用して欲しいとなれば、やはり、間に行政が入ってくれないと個人や自治会ではどうもならないですね。

そこはとても見晴らしが良くて、夏場に限ってならば、とても良い場所です。

そのためにも、やはり行政が買い取って、その施設に使えるようになるのなら、実際やればできるかも分からないですけど、聞いた所によると、更地にして払い下げになる様なのです。しかし、その建物が更地になるのは勿体ないですね。ですから行政が島の青少年のための何かに使うのだったら、今一番良いのではないかと思うのです。そうしたら、島の活性化に使えるのではないかと思うのですが、もう早急にしないと、自衛隊はもう国の方に戻して、それも更地にする計画のようなので、更地になったら何も建てられませんし、もうその土地の買い手もいないと思うのですね。

【市民】

市には要望しています。だけど無理だと聞いています。

【市民】

それは無理だと言っても、どうかして貰わないと、島の人間がその中を勝手に使えるのであれば、そうしてもらおうと、住民としては勿体ないですね。多分、あそこを塞ぐのに予算を使うのは。

【市民】

利用価値としては、観光面ですね。

【市民】

観光面というよりも、青少年村のようにして、キャンプ地として今の立派な建物を使えるのだったら、ちょっと改修すればできると思うんですけど。

【市民】

それに加えて、みのりの丘ではないですが、農地を市民農園のようにして、遊休農地であれば、耕作放棄地となるとちょっと難しいけれど、遊休農地に近い様な状態であれば、ちょっと手を入れさえすれば貸し出しも可能になるので、やはり、宿泊兼農業体験もできるし、或いは海岸に来れば魚釣りもできる。

やはり、そういった総括的な開発も必要ではないかなとは思うんですけどね。

【市民】

例えばその子供たちを受け入れたときに、島で何かこう対応っていうものができるかどうか。

【市民】

地元でそういう受け皿を作らなければいけないと思う。

【市民】

3年前くらいに、中学校からやらせて欲しいという話があったのですが、これが全員の協力を得られた訳じゃなかったんで、1回限りで終わってしまったという感じですね。

【市民】

100人以上を引き受けたよね。

【市民】

島からもアピールしていないが、そういうやり方も一つの方法かなとは思うのです。

【市民】

体験農業、お花のグループやら、農作業グループやら。

【市民】

農家が農業体験ということで、自分の所の色々な作業もあるし。

5、6軒ほど協力してもらったからね。

【市民】

中学生くらいが来てくれれば、役に立つからね。

【市民】

そう中学生にね。結構、力持ちだし、理解力も早いからね。

【市民】

それは日帰りですか。

【市民】

そりゃ日帰りですよ。

海岸のゴミ拾いとか、花摘みとかで、私もガーベラの後片付けを手伝いました。

その力利用すると。

【市民】

各グループに分かれて海の作業する人、畑の作業する人とか色々としたみたいですよ。

【市民】

子供たちも結構、喜んでいましたよ。

ただ、時期的な問題もあるけどね。

【市民】

自衛隊の跡地の事なのですが、自衛隊は市役所が引き受けてくれるのが一番良いということをおっしゃっていました。

【市民】

今は防衛省から財務省に所管が移っていますので。

【市民】

もう支所から異動された方が一生懸命になって、色々な事で動いてくれましたが、今、所長が言われたように財務省からも、もう更地で戻すことになっているので、もう無理ですよと言われていています。随分と、色々な所に働きかけてお願いしたのですがね。

【市】

司会を受けて頂いているのに私が横槍を入れるのもなんですけれど、六連島、まあ家族や親戚のような関係で、特に都会のような関係にはないと思いますけれど、例えば昔に比べると繋がりが薄くなったとか、そういう関係を含めて、もし何かあれば、その辺も含めた何かご意見があればと思うのですが。

【市民】

そういった事は無いと思いますね。今、一人世帯のお年寄の家があると、郵便を配りますから、ある程度は声を掛けたりしています。一人世帯が3軒あります。

【市民】

やっぱり、そうして近所の人がある程度気を掛けているので、そういう事は無いと思うのですよ。家も近いですから、どうしたのと近所の人が行って、子供の所に行っていたよとか何回もあったのですが、やっぱり周りの人が、隣、近所が年寄りを気遣っていて、やっぱりこの島はその点が良い所ですね。

【市】

今、島の人口は百十数名だと思うのですが、孤立した人はいないのですね。

【市民】

孤立というか、お年寄りに限らず、そういう人はいません。

【市民】

他の地域のような事はないです。それこそ家も開けっ放しですからね。戸を開けっ放しでよそへ行っても、皆がある程度、気をつけてくれるから、その点、防犯の心配はない。

【市】

むしろ、旧市内の方が、隣に住んでいる人の顔も分からないです。

【市民】

六連島では、そういった事は無いです。

【市民】

まちづくり会議といいですか、我々も今、自治会、園芸組合、漁業組合との三者が、最近、密に話し合いを持たないと頭数が減っているのです、色々な問題に対処できない。

今年の祭りからは、ちょっと形を変えたのですが、それはそれなりに時代に合った形になってきています。これをどのように持っていくかというのが、女性を含めての話し合いの場が少ないとは思いますが、それはそれなりに、少ないなりにやっぱ組織を一つにしないと、三者がいくら頑張っても、専門部分は専門部分で良いけれども、後はやっぱり島全体のこととして自治会に諮って、あと漁協と園芸組合がサポートするという格好では進んでいます。そういう面では地域の特性は素晴らしくなっているとは思いますが。ただやっぱりハンデがある分だけ、行政にお願いすることも結構あるとは思いますが。

【市】

今は島の高齢化率、65歳以上の割合が40パーセントくらいと、市全体と比べても少し高いのですが、今後はどうなっていくと思われませんか。

【市民】

このまま変わらないと思います。

【市】

これからも高齢化が進行するといいますか、若い人も、小学生、幼稚園もいますけれど、島から出て行くとか、そういった危惧みたいなものはあるのですか。

【市民】

出て行くというよりも、個人で生活ができなくなれば、もう病院に入るか、施設に入るかだと思います。

【市民】

高齢化は確実に進むと思います。

【市民】

やっぱり基幹産業である農業だけで皆が儲かるのであればだけど、なかなかそうはいかないし、戻ってこいとも言われぬですし、その辺はありますよね。

【市】

しかし、ビニルハウスもすごく立派ですよ。新しい設備投資。

【市民】

年を取って、定年になった頃、戻って来るかどうかというのが問題ですかね。

【市民】

今、彦島地域といいますか、西山では、定年退職された後、農業に従事する人が増えているようですが、六連島の場合、そこまではちょっと難しいのかなと。

今、普通60歳を過ぎたら定年で、65歳を過ぎたらフリーというのが、ここでは70歳から75歳ぐらいまでは皆、働いていますからね。仕事があったらやるし、年金だけでは食べていけないので、頑張る事もあるだろうけど、そういう面では仕事を持っているし、後はこういうのをやりながら、やっていると云うので、死ぬまで働く理由がここにあるから。そういうところがやっぱ島の特性かなと考えています。

【市民】

まあ後継者が4人ほどおられるからね。それは楽しみだろうけれど、私たちの年齢よりも上は高齢化しているから。動ける間は農業しますけど。

【市民】

自分の代で終わるという考え方なので、どうしても農地が余ってきます。

【市民】

会社を辞めてまでやろう思う人は、もうこれからはいないでしょうね。

【市】

本土といますか、県外にも出て行かれたりするのですか。

【市民】

近場に出ている人が割と多いので、島でイベントがあつたりすると、やっぱり子供たちも祭りだから、盆だから帰ろうかとなります。しかし、ここで生活するとなると、それなりの儲けを出さなきゃいけないですよ。

【市】

それは産業の後継者という事でしょうが、文化面、この島に伝わっている風土とか、そのものの後継も順調に行っているのですか。

【市民】

その辺りは、外に出ている子も割としっかりしているから、やっぱり盆踊りになったら若い子が中心になって、連絡し合ってメンバーを集めたりしています。

【市】

すいません。今日はお忙しい所、ありがとうございました。私も企画課に長くおりましたので、色々と離島の会議であるとか、県知事が来られるとか、何々を送るとかですね、色々な事で何度も来て、こういった会議もやってきましたが、その度に、目の前の目的を達成するために、新しい会議をして、よろしくお願ひしますとお願ひすることが多かったと思うのです。

その様な事もあって、今回、こういったまちづくりの会合をしてみると、意外に、もう少し1年間通して上手くすれば草が刈れるとか、上手にローテーションを組めば、沢山の人のボランティアでも協力してもえるとか、例えば、こういった場合には、どこまで高齢者の方に協力して貰って、ここまではこちらで協力して貰うとか、そうすれば、何でもかんでも一人でやって、朝から晩まで大騒動ということも少ないでしょう。

例えば、せっかく花の町だから、お弁当は各自で持ってきて貰えれば、ちょっと最後にプレゼントとして花が1本ぐらいあるよとか、何か工夫していく方法もあると思います。

今、ボランティアでも、随分と無報酬で協力するのが増えていて、色々とお願ひという気持ちで受け入れれば、そういうこともあろうと思います。

今日の話の中で、行政にもう少しきめ細かな認識を持ってサポートして欲しいというのは、個人ではなくて自治会でちゃんとまとめて要望していこうというのも良いと思います。やっぱり要望してはいけないという事は無いと思いますしね。

ただ、あれもこれも全部、行政にしてくれと言えど何かするかもしれないし、しなければ、そのまま我慢しないといけない事になってしまいます。

でも、行政に要望したけれどやってくれない、行政が全部、悪いとって終わってしまったら、結局、半年でも1年でも我慢しなければいけないですよ。でも、こういっ

六連島地区まちづくり集会（H25.10.11 開催）

た会議の中で、行政はあれはやってくれるが、これはやってくれないぞといった時に、一緒になってやれば、行政もまた色々な形で、地域が中心となって企画、プログラムを考えていくのに協力したり、応援したりする制度についても考えていこうとしていますので、そういう時には、もしかしたらそういう草刈りでも、1年に3回くらいは地域が主催してやるので、行政にもちょっと協力して欲しいとなれば、全部は市ができないかも知れないけれど、うまい工夫をしながらやれば、皆さんだけでなくもいろんな行動ができたり、一緒に良い地域にできることもあるかもしれないと思うのですよ。

だから、こうして少しゆったりと、自由な会話をしながら可能性のあること、又は、余り放置していたら、結局は文句だけになってしまうので、それよりも、色々なアイデアを組み立てながら、お互いの関係の中で出来る事や、行政も色々な他の所でやっている事例や情報も持っていますので、お金を余り必要としないやり方などをご相談頂ければ、何かアイデアも提供できるのではないかな。

今後、地域で、そういった会を持ちながら皆でお話をする、自分たちの地域が安心できる地域にしていくための新しい方法と思っていますので、これからは少しお互いの中で考えながら検討していくということで、これからまた進めさせて頂きたいなと思いますし、また、ご協力頂きたいと思っております。今日はお忙しい所ありがとうございました。

【市】

それでは、本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございました。

以上で六連島地区まちづくり集会全日程を閉じさせていただきます。ありがとうございました。